



## 平成17年度第1回医会長協議会開催される

### 次年度フォーラムは愛媛、次次年度は岐阜で

平成17年11月27日(日)午後1時より東京の事務所において17都県の医会長(含む代理・個人会員)が集まって開催された。始めに厚労省老人医療企画室長濱谷浩樹氏による『「医療制度構造改革試案」について』と題して特別講演があり、厚労省の試案の概要などについての詳しい説明があった。次に議事にはいり、各医会長の活発な意見が出された。主な内容は以下の通り。

#### 1. 耳鼻咽喉科の包括評価について

耳鼻科の全体の包括化は難しいと思う。処置だけなら可能であるが、基本的処置は設定して貰わないといけないと思う。耳処置・鼻処置・喉頭処置これをまとめると外来管理加算と同じ52点になる。具体的に提示されないと包括がよいか悪いか一概には言えないが、包括して貰ったら困る処置も色々あるので耳鼻科として基本的な立場を主張していかねばならないと思う。ただ、今の情勢では包括が安い点数で設定されるのではないかと。また耳鼻科の処置点数は永年低く抑えられたままであるので、これも何とかしないとイケない。

#### 2. 米国型医療制度改革について

国民が充分理解出来ないうちに、小泉内閣は、アメリカ型の医療即ち混合診療、株式会社の参入、医療保険へのアメリカ保険会社の参入を図ろうとしており、このままではアメリカナイズされてしまい、地方の基幹病院のない所の患者さんは非常に困ると言うことが考えられる。今、強力で反対運動をしないとイケない。医会としての意見をFAXニュース等に出したい。そして色々な意見を上に上げるような努力をしたい。以上

なお、次次年度(平成19年)の臨床家フォーラムの担当を岐阜県に引き受けて頂けることが報告された。

## 医療制度構造改革試案の骨子 厚生労働省

### 医療費の伸びの抑制

1. 中長期的対策として医療費適正化計画での目標
    - (1)生活習慣病の予防の徹底 (2)平均在院日数の短縮
  2. 短期的対策 (1)公的医療保険の給付範囲の見直し (2)診療報酬の適正化 など
- 医療保険制度体系の見直し
1. 都道府県単位の保険者の再編・統合
  2. 新たな高齢者医療制度の創設
  3. その他 (1)所謂「混合診療」への対応 (2)中医協の委員構成等の見直し (3)ITの活用による効率化

### 高齢者の窓口負担増 1割 2割 2割 3割

政府・与党は1日の医療改革協議会で、06年度から実施する医療制度改革の大綱を決定した。高齢者を中心に患者負担を引き上げる。「所得のある高齢者には応分の負担を」という考えのもと、06年10月から70歳以上で現役並み所得(夫婦世帯で年収約520万円)の人は、窓口負担が今の2割から現役世代と同じ3割に。08年度からは70~74歳で今は1割負担の人も2割になる。

なお日医など38団体でつくる国民医療推進協議会は12月3日、東京都内で医療制度改革による患者負担増等に反対する「国民皆保険制度を守る国民集会」を開いた。また、患者負担増に反対する署名運動について、同日までに100万人を超える署名が集まったと報告した。

## レセプトのオンライン化11年度に完全実施

政府がIT新改革戦略

政府の「高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部」は12月8日、2011年度当初までに全レセプトのオンライン提出と受領を目指すことなどを盛り込んだ06年度以降のIT新改革戦略をまとめた。年明けにも正式決定。

05年度中に「大病院・薬局」「中病院」「小病院・診療所」の区分を設定し、区分別に順次導入する。

オンライン化を推進するために、医療機関への診療報酬上での評価などの奨励策を06年度までに整備。逆にそれ以外の場合は、診療報酬支払い期日を延ばすなどのペナルティを設ける。現在はレセプトの約8割が紙。

## 花粉 来春は少なめ 関東周辺は平年の半分以下

気象業務支援センターの村山専任主任技師は「来春は勿論、平年より少ない」とみる。その理由として花粉量を左右する7月の日照時間が平年より少なかった花粉量が多かった翌年は少ないを挙げ、「今春特に多かった関東周辺は来春は平年の50%以下、東海から西は50%以上」と予想する。

また、長年、花芽調査をしている林業科学技術振興所の横山主任研究員は「極端に多く雄花をつけた翌年は、木が消耗していることもあり、新しく雄花をつける枝があまり伸びない。今春は10年に1度の大豊作だったし、花芽の状態を見ても来春は少なめという印象」と話す。

## 経営主体別診療科別診療諸率 05年8月分

【医科入院外 抜粋】

	1件当点数	1件当日数	1日当点数
総合計	1,046	1.6	641
診療所計	902	1.7	541
内科診療所	1,072	1.6	663
小児科診療所	825	1.6	510
眼科診療所	661	1.2	558
耳鼻科診療所	706	1.9	373
耳鼻科本人	719	1.8	406
耳鼻科家族3才以上	668	1.9	357
耳鼻科家族3才未満	866	2.4	361
老人保健8割	879	2.6	345
老人保健9割	865	2.7	324

プロスタグランジンD<sub>2</sub>-トロンボキサンA<sub>2</sub>受容体拮抗剤  
アレルギー性鼻炎治療剤

**バイナス錠**

◆50mg ◆75mg Baynasid<sup>®</sup> (プロピロフェン) 固形剤

効果・効能、用法・用量、用法・用量に留意する使用上の注意、留意点を表の添付文書に記載しては、製薬会社文書をご覧ください。

※小児科の処方に対する安全性は確認していません。  
【添付文書参照してください】

株式会社 中外製薬  
〒111-8601 東京都港区赤坂三丁目1番1号  
http://www.bayer.co.jp/

Bayer HealthCare

(2006年8月現在)